

## 令和7年度 学校経営方針

和泉市立鶴山台南小学校  
校 長 葛城 有理子

### Aはじめに（学校経営方針の基本的考え）

学校教育のなかでは、不易と流行という言葉がよく用いられる。不易流行の学校経営とは、継続性（残し伝えるべきところはきちんと残す）と変革性（変えるべきところは勇気をもって変える）を有することである。「予測不能の時代」ともいわれる社会となり、学校もその変化に対してスピード感を持って対応していく場面（流行）と新古を超越しいかに時代が変化しようとも変わらない教育の本質（不易）を大切に、指導の成果を検証し、課題発見・改善計画立案と実行のサイクルを構築していかなければならない。

そのために、教職員は自らの力量を高めることでより質の高い教職員集団となることをめざし、ともに学び・支え・高め合う児童を育て、保護者・地域との連携をさらに深め、説明責任を果たすことが必要と考える。そこで以下のような学校づくりをめざす。

### B学校教育目標とめざす子ども像

和泉市教育大綱の基本理念に則り、信太中学校区の4校で共有するめざす子ども像を踏まえ、学校教育目標の実現に向けて取り組むことを基本とする。

信太中学校区めざす子ども像

ともに伸びようとする子 ～みとめる・つながる・高めあう～



本校学校教育目標 生き生きと輝く子を育てる

めざす子ども像

- ・心豊かで、思いやりのある子ども
- ・学ぶ喜びを知る子ども
- ・明るく元気な子ども

#### ① 「生き生きと」 過ごすために

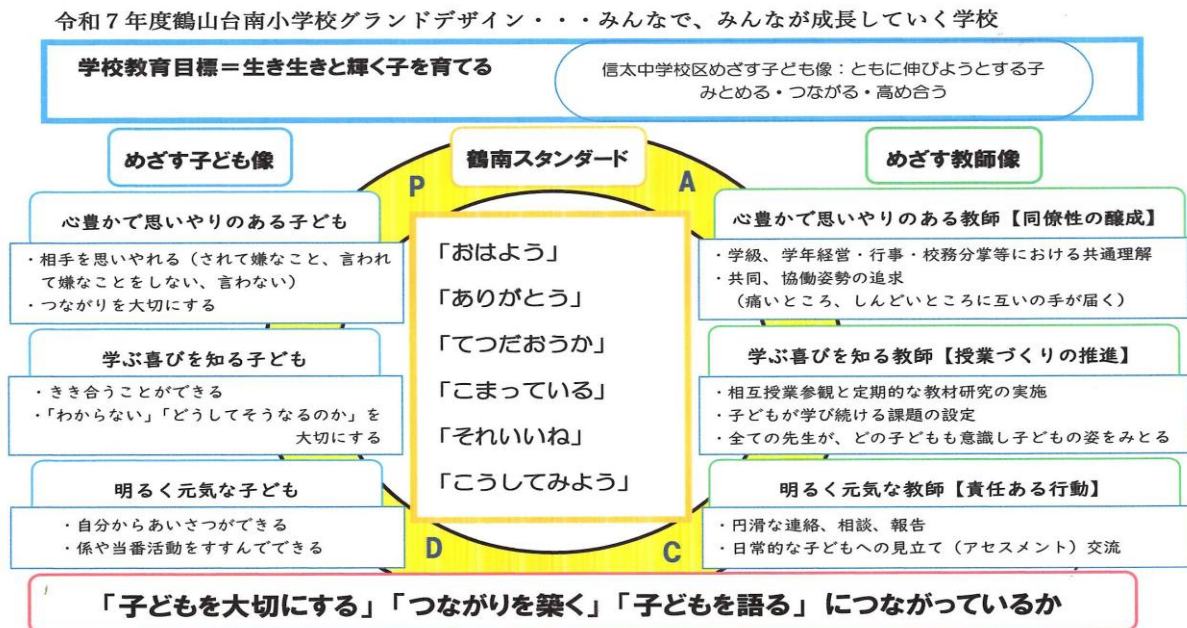
→ 一人ひとりの生命と人権を大切にする環境をつくり、  
ともに学ぶ楽しさを味わえる学校をめざす。

- #### ② 「輝く子を育てる」 ために→
1. 豊かな心 （徳育）
  2. 確かな学力（知育）
  3. 健やかな体（体育）

三育の調和のとれた教育課程を編成する。

- #### ③ 「子どもを大切にする」「つながりを築く」「子どもを語る」に
- つながっているかを意識した教育活動を行う

## C 学校経営方針の全体構想（グランドデザイン）



## D 行動の指針

以上の方針をもとに各分掌等で、成果と課題を明らかにしたうえで具体的方策の立案を行う。その目標化への指針は以下のとおりとする。

### 1. 豊かな心の育成（徳育）

- (1) 道徳教育の充実・年間指導計画に則った、着実な履修を行う
  - ・全教育活動、日常生活の中で体験的な活動を通して道徳性を養う。
- (2) 人権教育の充実
  - ①いじめ・差別・偏見を許さない温かい学級・学校経営の推進
  - ②あらゆる教育活動を通じて人権教育を推進
  - ③同和問題、男女平等、障がい者、在日外国人、性の多様性等の様々な人権問題に対して、校内推進体制を強化
- (3) 特別活動の充実
  - ①あいさつ運動の継続
  - ②児童会・委員会等の自主的・自立的な活動の充実
- (4) 豊かな体験活動の提供
  - ①校外学習等の工夫（自然体験・社会体験）
  - ②保護者、地域、関係機関等との連携協力
- (5) 読書活動の推進
  - ①読書の楽しさとの出会いを提供（朝の読書、学校図書館の有効活用）
  - ②「図書だより」発行、図書室からのイベントや読み聞かせ等で児童が多様な本にであう機会を増やす

### 2. 確かな学力の育成（知育）

- (1) 基礎学力の定着
  - ①学習の基本となる「きく・話す・書く」力の育成と四則計算の確実な習得
  - ②習熟度別指導や GIGA 端末の活用等、個に応じた指導方法の工夫・改善
  - ③家庭学習習慣の定着に向けた取組
- (2) 魅力的な、楽しい、分かる授業の創造

- ①教材研究による教材・教具の工夫
- ②学び合い、支え合い、高め合う授業
  - 互いの意見をききあい、知恵を出し合い、新たな学びがある授業
  - 主体的・対話的で深い学びの実現
  - 「育成をめざす資質・能力の三つの柱」
    - Ⅰ 学びに向かう力・人間性等の涵養
    - Ⅱ 知識・技能の習得
    - Ⅲ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⇒「生きる力」
- ③指導と評価が一体化された指導計画と授業構築
- ④研究授業・研究討議の充実（校内および中学校区）
- （3）言語活動の充実（思考力・判断力・表現力の育成）
  - ①国語の授業の充実と日常の言語環境の整備
  - ②語彙を豊かにする活動。→対話やスピーチ、プレゼンなどの言語活動の場の計画的設置
  - ③朝の読書・学校図書館の充実
    - 全学級で「朝の読書」を大切に取り組む
  - ④外国語教育実施のためのA L Tや中学校区での協力推進
  - ⑤「プログラミング的思考」を育むためのプログラミング教育の導入
- （4）支援教育の充実
  - ①全教職員が障がいについて正しい理解を持ち、支援教育の視点に立った指導の実践する
  - ②支援を要する児童の把握と保護者との共通理解の促進
  - ③支援コーディネーターを中心とした校内支援委員会の活性化および一人ひとりのニーズに応じた組織的な対応
  - ④「個別の教育支援計画」および「個別の指導計画」の学校・保護者共通理解による作成と内容充実
- （5）総合的な学習の時間の充実
  - ①ねらい、内容（平和、福祉、環境、情報、国際理解等）を明確化した系統性の構築
  - ②各教科等の内容を関係づけた指導
  - ③キャリア教育の推進→児童が、自分がこれからどう生きていくか考え、自身の変容や成長を自己評価できる学習に取り組む

### 3. 健やかな体の育成（体育）

- （1）体育、保健学習の工夫・改善
  - ①学年別年間カリキュラムを作成・実施・検証
  - ②新体力テストの実施と結果の活用
  - ③自他の生命の尊重や、生涯を通じての健康・安全管理の基礎作り
  - ④季節に応じた継続的な体力づくりと各自の目標設定に向けた取組  
(持久走、縄跳び等)
- （2）遊びの奨励
  - ①外遊びの奨励
  - ②計画的な縦割り活動の実施
  - ③学級や学年での集団遊びの工夫
- （3）健康・安全教育・食育の推進、生活指導の充実
  - ①早寝早起き朝ご飯等、家庭の協力を呼びかけながら基本的生活習慣を確立させる。
  - ②食育を踏まえた給食指導（正しい知識、感謝の心、楽しい給食）
  - ③校内生活、校外生活、交通安全、災害安全、その他での安全指導・安全点検の充実と事故等の未然防止
  - ③危機管理マニュアルの整備と目的に即した効果的な避難訓練の実施
  - ④ケース会議の活用と組織的な対応

チーム対応による生徒指導の実践（チーム学校）  
チーム対応を推進するための「さしすせそ」と「ほうれんそう」  
さ…最悪を考えて                      ほう…報告  
し…慎重に、かつ                      れん…連絡  
す…素早く                      そう…相談  
せ…誠意を持って  
そ…組織的対応を

#### 4. 同僚性が高く、環境が整備された職場づくり

##### （１）同僚性の高い職場

- ①学校経営方針のもと、各分掌における教職員一人ひとりの学校経営参加意識の醸成と各自がリーダーシップを発揮できる職場作り
- ②教職員相互の支え合いと高め合いのある職場作り  
通常学級担任と学年付きの教員の協力体制の強化
- ③研修等を受講した教職員による校内伝達研修の活性化

##### （２）環境の整備された職場

- ①人的環境の整備…児童にとって最大の人的環境は教職員との見地に立った人権感覚（服装、言葉遣い、時間等）
- ②物的環境の整備…長期的展望に立った予算の執行による環境整備や教材教具の整備

#### 5. 信頼される学校の創造

##### （１）開かれた学校づくり（学校・家庭・地域との連携）

- ①保護者・地域・教育ボランティア等の学校教育活動への参加促進
- ②教育活動について内部評価（教職員）外部評価（保護者）の実施と結果の公表による学校改善
- ③学校運営協議員等を活用した地域に開かれた学校づくりと学校運営体制の充実
- ④学校だよりや学校ブログ等による情報の積極的発信と説明責任を遂行

##### （２）小中一貫教育の推進

- ①中学校区における９年間の接続・連携に留意した小中取組みの方向性共有
- ②魅力ある学校づくり調査研究事業を引き継ぐ、生きる力を育成する「魅力ある学校づくり」の取組み